

資生堂

見学コースを設定した、
上海工場の第3期拡張工事が完了。

資生堂の中国における生産子会社の1つ「上海卓多姿中信化粧品有限公司」の第3期拡張工事が完了し、製品供給体制が2倍に強化された。今回の拡張は、資生堂化粧品専門店の契約店舗数拡大にともない、化粧品需要が伸びているためである。

同工場は2006年、「先進技術」を有する企業として「上海市外商先進技術企業」の認定を受けており、現在、資生堂化粧品専門店向け商品「悠菜」をはじめ、組織小売業向けの「Za」などを生産している。今回の拡張を機に、一般市民を対象とした見学コースを設定し、地域に根ざした「開かれた工場」になることをめざしている。



高級ヘアケア用品「TSUBAKI」を
9月下旬から発売開始。

日本で大ヒットした高級ヘアケア用品「TSUBAKI」が、満を持して中国市場に投入された。「TSUBAKI」は、東洋人だから表現できる髪の美しさを引き出すために、昔から用いられてきた椿オイルを進化させて配合したヘアケア製品で、シャンプー、コンディショナー、トリートメントの3種類から構成されている。当面は日本からの輸入品を販売する。

「TSUBAKI」は、純度の高い椿オイルに資生堂独自の美髪補修成分を調合した製品で、毛径が太くハリやコシが出しやすい東洋人のために、髪に光が当たると濡れたように艶を放つことをめざして開発された製品である。550ミリリットル入りの希望小売価格は85元。中国全土の百貨店、ドラッグストア、化粧品専門店など、1,900店で販売中。



シャープ

亀山モデルのフルハイビジョン AQUOS を中国にて新発売。

シャープは 8.1cm の薄さを実現した高画質テレビ、「AQUOS」G シリーズ 3 種 (52 型、46 型、37 型) を 9 月に発売した。全モデルともに最先端の象徴とも言える、亀山工場製フルハイビジョン液晶パネルを採用。高精彩・高コントラスト・広視野角を実現している。加えて、テレビを見る部屋の明るさにあわせて、バックライトの輝度を自動的に最適化する「明るさセンサー」機能を搭載。明るいリビングでも黒が引き締まり、メリハリのある映像を再現するなど、テレビ番組や映画ソフトなど映像のもつクオリティを存分に楽しむことができる。また、壁掛けなどさまざまな設置シーンに対応した、スリム・デザインを採用。壁から 15cm に収まる「大画面で省スペース」を実現している。

加えて、デジタル放送やゲーム機、次世代 DVD などが楽しめる、HDMI 入力端子 3 系統を装備。液晶パネル自体の性能劣化はほとんどなく、バックライトは 6 万時間の長寿命設計。52 型で 287W

の低消費電力を実現するなど、先進の環境性能を備えている。



広州ホンダ

研究所を設立し、 独自ブランド車の開発・販売へ。



本田は「需要のあるところで、顧客が求める車を開発し、生産する」ことを理想としているが、その理想を中国でも実現することになった。本田技研工業の合弁会社「広州本田汽车有限公司」は、1999 年の稼動開始以来、生産・販売の事業基盤を着実に強化してきたが、このたび研究開発の子会社を設立。R&D の分野でも独自化路線を強化していくことになった。

新会社は「広州本田汽车研究开发有限公司」で、今後、広州本田が約 20 億元を投じて、本格的な高速テストコースを併設した四輪車の研究開発施設を建設する。同研究所では 2010 年を目標に、中

国の消費者をターゲットとした新型四輪車を開発し、広州本田の独自ブランド車として販売する計画である。

新型四輪車は本田が提供する車体やエンジン技術などを基に、研究開発会社が設計・開発するもので、中国市場のニーズを取り入れた乗用車になるという。そのため、2010年までに研究開発会社の陣容を200人体制にする計画だ。合弁会社による独自ブランド車の開発は初めての試みであり、さらなる現地化をめざす合弁事業の新しい形として注目されている。

大和ハウス工業

大連と蘇州で分譲マンションを建設。

日本の住宅・不動産会社、大和ハウス工業が中国各地で分譲住宅事業を加速している。

大連市では総合建築請負・不動産開発などを展開する大連中盛集团有限公司と合弁会社を設立し、分譲マンション「頤和香射」を建設。10月から販売開始、12月以降の完成をめざしている。

「頤和香射」は2～18階建て28棟から構成さ

広告

れており、総戸数は835戸。大連市の中心地に位置し、南側には主要幹線道路の1つ長江路が走り、路線バス約30系統が運行されているなど、まさに交通至便の地である。また、名園といわれる「頤和園」の雰囲気を取り入れるなど、落ち着いた景観を醸し出している。中国では内装なしでの販売が一般的だが、1棟は日本と同様、内装付きでの販売を予定している。販売価格は日本円で1,000万円～4,000万円だが、早くも引き合いがあるという。

一方、蘇州市では、住宅やホテル、商業施設の建設が予定される再開発地の一角に、約7万7,000平米の土地を取得した。ここに大型分譲マンションの建設を計画しており、2010年3月の完成をめざし、20階建ての高層マンション（総戸数1,250戸）を建設するという。

大和ハウス工業は1980年代の前半から、中国への住宅の輸出と建築を開始し、85年には上海で外国人（主に日本人）向けの賃貸住宅の建設と運営を始め、それ以後、上海、北京、天津、大連で同様の事業を展開してきた。2006年3月には宝業集団股份有限公司と中国での戸建住宅建設に関する共同技術開発契約を提携。中国での活動に弾みがついている。



大連でのプロジェクト「頤和園」の完成予想図

三菱電機

日本企業として初めて、原子力発電プラント制御システムを受注。

中国では2020年までに原子力発電所の設備容量を現状の約9,000MWから40,000MWに増強する計画で、今後20基以上の原子力発電所の建設が予定されている。三菱電機は中国広東核電集団有限公司傘下のエンジニアリング会社である中広核工程有限公司から、遼寧省紅沿河および福建省寧徳に建設予定の原子力発電プラント6基の制御システムに関する入札招請を受け、2006年11月に北京広利核系統工程有限公司と共同で入札に応じた。三菱電機は入札に当たりコンソーシアムリーダーとして三菱重工、三菱商事とも協力して提案を行ない、数度にわたる契約交渉を経て、2007年7月4日に正式契約を締結した。契約金額はコンソーシアム総額で約300億円におよぶ。

なお、日本企業が中国の原子力発電プラントの制御システムに参加したのはこれが初めて。三菱電機は今回受注した6システムの設計・製作を通じて、北京広利核系統工程有限公司に対する技術協力を実施し、中国メーカーによる国産化を支援していく。

伊勢丹

2008年は瀋陽、
2009年には北京に新規出店。
ファッションを中心に
新しいライフスタイルを提案。

今年5月、伊勢丹は四川省成都市に「成都伊勢丹」をオープンした。伊勢丹の内陸部への出店はこれが始めて。成都是人口1,000万人を擁し、古くから商業の盛んな都市で、近年は高技術産業開発区にも指定され、バイオテクノロジーやハイテク産業の中心として発展しており、中国でも指折りの購買力を有する。「成都伊勢丹」は市内最大の商業集積エリアである錦江区大科甲巷に位置し、地下1階～地上8階、売場面積28,000平方メートルを誇る総合百貨店である。

「成都伊勢丹」は、開店にあたり品揃えの約70%を成都初登場のブランドで揃えた。これにより、北京や上海でなければ買えなかった憧れのブランドが、成都で購入できるようになったと、大勢の顧客が殺



成都伊勢丹

到した。加えて、中国では珍しい「フルマーチャンダイジング」方式を採用し、衣・食・住に関する商品やサービスが1店舗で揃う総合百貨店としたことが好評を博し、5月の



瀋陽伊勢丹

開店以来、予想を上回る集客を記録している。

また、2008年1月には「瀋陽伊勢丹」がオープンする。瀋陽市は人口約700万人を擁する東北部の中心都市であり、ファッションセンスが高いことで知られている。それだけに「ファッションの伊勢丹」の進出が大きな話題となっている。出店するのは市内最大の繁華街である和平区太原北街に建設中の複合ビル地下1階～地上7階部分。成都と同様、衣・食・住が揃う「フルマーチャンダイジング」店舗を予定している。

さらに、2009年には首都北京への出店を実現する。「北京伊勢丹(仮称)」の出店予定地は、北京市最大級の商業集積エリアである西城区西单北大街で、現在建設中の複合ビル「美晟国際広場」の地下1階～地上5階部分を充てる方針である。伊勢丹は2007年10月現在、上海(2店舗)、天津、成都に出店しており、これに2008年の瀋陽、2009年の北京が加わり、6店舗体制となる予定である。